

モックンバード・ファミリー™ 導入ガイド

*担当のホスト・エージェンシー（HA）は、このガイドの他に「モックンバード・ファミリー実施のためのステップ ◎ 早見表」を参照してください。

ステップ（1）：モデル導入の検討 IFCA への問い合わせから ホスト・エージェンシー（HA）の準備度評価（レディネス・アンケート）の記入まで

◎ 使用する資料（米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料） *モッキンバード・ファミリー・ジャパン（MFJ）独自の資料は青字で記載されています。

- モッキンバード・ファミリー実施に向けての組織準備度の評価（日本語版）
- モッキンバード・ファミリー™の概要（パワーポイント IFCA 作成）

▶このステップの目標：モッキンバード・ファミリーの適切な実施と長期のプログラム運営に向けて、HA 候補に組織態勢を整える意志があるかどうかの判断をする。

▶ホスト機関候補に対する質問：HA 候補に MF 事業に取り込む組織態勢を整える意志があるか？ HA となる機関と IFCA の価値観が一致しているかどうか。このふたつの質問の答えが両方とも「ノー」の場合は、導入を見合わせる必要がある。HA の支援なしにモデル導入することは、だれの利益にもならない。

適正	どちらとも言えない モデル実施に必要なコミットメントが十分でない	不適正	モッキンバード・ファミリー・ジャパン (MFJ) のメモ
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 職員の賛同 <input type="checkbox"/> 管理職の賛同 <input type="checkbox"/> 価値観の一致 <input type="checkbox"/> HA 候補機関が長期的な観点からモデル実施の計画を立てられる <input type="checkbox"/> 財政面の支援についての考慮がある <input type="checkbox"/> 団体の資源やスタッフを利用してモデル構築を支える意志がある 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 組織の一部の人間がこのモデルの導入に賛成している（ケアスタッフ、中間および上層の管理職、など） <input type="checkbox"/> 価値観の項目のうちほとんどに一致がみられる <input type="checkbox"/> モデル導入を1年から2年のパイロット事業としてとらえている <input type="checkbox"/> 支援スタッフの提供が十分でない可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 一般職員や管理職の賛同が無い <input type="checkbox"/> 価値観の一致が見られない <input type="checkbox"/> モデル実施そのものを「購入するサービス」という観点からとらえている <input type="checkbox"/> この取り組みを、組織的な支援の無いパイロット・プロジェクトと考えている <input type="checkbox"/> 管理職レベルが、組織の持っている資源やスタッフを利用してモデル構築を支える計画が無い 	<p>このステップはモデル導入の検討の段階です。IFCA とホスト機関が顔合わせをして、以下の内容について、協議します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プログラムの有益性（有効性） ○ モデル実施の上での障壁や課題 ○ スタッフの関心とサポートの確認 <p>この段階で、モッキンバード・ファミリーの基礎を学ぶためのホスト機関のオリエンテーションを行います。</p>

HA となる機関が： 100% 準備完了の場合	どちらとも言えない場合	不適正と判断された場合	MFJ のメモ
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ホスト機関と IFCA が、以下のことを含むいくつかの項目について合意書を交わします。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 財政的な計画 ○ データ収集の義務 ○ 知的所有権の尊重、など <input type="checkbox"/> 集中研修の日取りを決定する 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ホスト機関を希望する団体を訪問し、組織の準備態勢を調査する <input type="checkbox"/> 訪問の際に、モデル実施に向けての懸念点や準備が不足している事項について関係者と話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> IFCA がホスト機関を希望する団体に、なぜ実施に踏み切らないかを説明する <input type="checkbox"/> それでもモデル実施を希望する場合は、どのような組織的な変化が必要なのかを具体的に指摘する 	<p><作成・記入の必要な書類> 1) モッキンバード・ファミリー実施に向けての組織準備度の評価</p> <p>この評価の結果により、ホスト機関の準備度が明確になります。</p>

ステップ (2) : 着手 合意書と実施作業チームの結成

◎ 使用する資料 (米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料) *MFJ 独自の資料は青字で記載されています。

- プロジェクト実施チームのメンバーの業務内容リスト (日本語版)
- チームごとのモデル実施工程表 (IFCA 作成)
- 個人の研修スケジュール表 (IFCA 作成)
- HA と IFCA の合意書 (IFCA 作成)

▶ **このステップの目標**：ステップ (3) の『集中研修』をひかえて、ホスト・エージェンシー(HA)候補の機関は、組織内の資源やスタッフをどのように活用・提供してゆくかを考える。モッキンバード・ファミリーを実施する組織内外の人たちをリストアップする。(実施作業チームの結成)

▶ **ホスト機関と実施作業チーム全体に対する質問**：実施作業チームの編成ができているか？ハブホームやモデル普及のための長期的な資金調達の計画を持っているか？

HA となる機関が： 準備完了の場合	どちらとも言えない場合	MFJ (モッキンバード・ファミリー・ジャパン) メモ
<ul style="list-style-type: none"> □ プロジェクト・マネージャー、リエゾン、などの 実施作業チーム・メンバーの選出 □ 集中研修の日取りの決定 □ 事業の長期計画 □ 財政的な計画 (予算案の作成) 	<ul style="list-style-type: none"> □ IFCA は、以下の二つの事項について協力する <ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクト・チームのメンバー選出 ○ コンステレーション立ち上げから5年間ぶんの経済的計画の作成 	<p>このステップに到達するまでに、HA の外部の人たちを巻き込むことが重要です。児童相談所・地域のステークホルダーなどです。</p> <p><作成・記入の必要な書類></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) IFCA とホスト機関の合意書 (この書類のサインは、ステップ (3) の「実施計画書」作成時に行う。) 2) 実施のタイムラインと実施作業メンバーのリスト 3) トレーニングのスケジュール表 (これはプロジェクト・メンバーがひとりひとり個人で所有・管理する)

ステップ (3) : プログラムの実施 集中研修と『実施計画書 (プロトコル)』の作成

◎ 使用する資料 (米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料) *MFJ 独自の資料は青字で記載されています。

- HA 集中研修カリキュラムと関連資料 (Immersion Training 翻訳中)
- ハブホームの職務説明書 (日本語版)
- リエゾンの職務説明書 (日本語版)
- 計画地図の作成 (この様式は無し)
- 「ホスト・エージェンシー実施のためのハンドブック」 (日本語版)
- フィデリティ・チェックリスト (日本語版・ハンドブックの巻末にも有り)
- 実施計画書 (プロトコル) (日本語版 IFCA 作成)
- コンステレーション立ち上げの際に考慮することのリスト (日本語版)

▶このステップの目標：モッキンバード・ファミリー™は、単なるサービス提供の方法ではない。事業にかかわる人たちの児童福祉に対する考え方と組織運営の仕方の変革が求められる。集中研修は、関係者すべてが児童福祉について再考し、子どものケアに対する新しい組織構造を築くための最初の「機会」である。

▶ホスト機関と実施作業チームに対する質問：ホスト・エージェンシー (HA) となる団体には、モッキンバード・ファミリーの導入が地域に何をもたらすかを理解しているか？『実施計画書 (プロトコル)』を作成したか？フィデリティの条件を満たすことができるか？

以下の項目が完了している	部分的に完了している	まだほとんどできていない	MFJ メモ
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 集中研修の受講 <input type="checkbox"/> 『実施計画書 (プロトコル)』の作成 <input type="checkbox"/> 地域のマッピング (計画地図) を行い <input type="checkbox"/> 里親など養育者のリクルートの手順 <input type="checkbox"/> ハブホームが決定している <input type="checkbox"/> リエゾンの選択 <input type="checkbox"/> ハブホームとリエゾンの研修 (これはステップ (4) ですることも可能) <input type="checkbox"/> コンステレーション開始の日取りを決める 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 集中研修には3日から4日かかることを考慮して日程調整を行う <input type="checkbox"/> 『実施計画書 (プロトコル)』の内容が『フィデリティ・チェック』の条件を満たすかどうかの確認をする <ul style="list-style-type: none"> ○ 月に一度の頻度でミーティングを開催し、上述した項目について協議する <input type="checkbox"/> モデル導入の地域が大きすぎないかどうかを確認する <ul style="list-style-type: none"> ○ なぜこの地域を選択したのか？それは単に、導入が容易だと考えたためだろうか。地域資源が十分だろうか <input type="checkbox"/> リエゾンの選出はコンステレーションの立ち上げの2ヶ月前に行われることが望ましい <input type="checkbox"/> ハブ・ホームは立ち上げの1ヶ月前に決定していることが望ましい <input type="checkbox"/> モデル導入にかかわるすべての人たちがモッキンバード・ファミリーについての基礎知識を得るための研修を受けている必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ハブ・ホームを決定する <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の里親についての知識と情報を得たら、だれがハブ・ホームとして理想的かを判断することができる。元里親だった人でもよい。サテライト・ホームとなる里親たちから意見聴取することもできる ○ もしかしたら、導入する地域を変える必要があるかもしれない <input type="checkbox"/> 『実施計画書 (プロトコル)』と『フィデリティ・チェック』の内容を比較する。合意書をどのように使いこなせば、『フィデリティ・チェック』の条件を満たせるのかを考える <input type="checkbox"/> モッキンバード・ファミリーのモデルとしての柔軟性を利用する (例えば子どもの人数を徐々に増やす、など) 	<p>多くの場合、地域の養育者や資源がどこに位置するのかを、マッピングの作業で探り、コンステレーションに参加する里親を選出します。</p> <p>『コンステレーション立ち上げの際に考慮することのリスト』を使用して、コンステレーションを作ることが推奨されます。</p> <p>集中研修を行う際、プロジェクト・チームの中のだれが参加するべきなのかを検討します。</p> <p>ハブ・ホームとリエゾンを決め、かれらを対象とした研修を行います。</p> <p>関係者が集まってキックオフ会議を開き、IFCA と HA がモデル開始のための『実施計画書 (プロトコル)』を作成します。この計画書の内容には次の事項が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ IFCA と HA の役割 ○ 実施チームメンバーのリスト ○ 委託について考慮すべきこと ○ 非常時や養育困難時の連絡や対処の手順 ○ 措置の安定とパーマネンシーの確保についてプロジェクト・チームが行うこと ○ HH やサテライト家族が受けるサポート

ステップ (4) : コンステレーションの構築開始

◎ 使用する資料 (米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料)

- 一連のコンステレーションの構築開始資料

▶このステップの目標：ステップ (3) の『集中研修』を控えて、ホスト・エージェンシー候補の機関は、組織内の資源やスタッフをどのように活用・提供してゆくかを考える。モッキンバード・ファミリーを実施する組織内外の人たちをリストアップする。

▶ホスト機関と実施チーム全体に対する質問：ホスト・エージェンシーと里親家庭はコンステレーションの立ち上げの準備ができているか？

準備が完了している場合は	準備完了まであと一歩の場合は	MFJ メモ
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ハブホームが同意書にサイン <input type="checkbox"/> ハブホームとリエゾンが研修を受講 <input type="checkbox"/> ハブホームに6から10のサテライト家族が在る <input type="checkbox"/> コンステレーション内に6人から18人の子どもがいる <ul style="list-style-type: none"> ○ HA と IFCA の協議のもとに、柔軟性をもったコンステレーション形成をする。小規模のコンステレーションを築くことも可能である。(例えば、里親家庭に実子の数が多い。里子たちに発達・行動面で大きな課題がある、などの場合) <input type="checkbox"/> コンステレーションの立ち上げのセレモニーをする。(ここには HA とコンステレーションの家族だけでなく、外部組織の人たちも招く) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> もしもまだハブ・ホームとリエゾンがトレーニングを受けていなければ、この段階で受講することができる。 <input type="checkbox"/> サテライト・ホームの数が少なくとも、増やす計画さえあれば、コンステレーション構築が開始できる。 	<p>モッキンバード・ソサエティによると、このステップでは、コンステレーション構築開始にあたり、セレブレーション(お祝い)をすることに最も焦点をあてるそうです。</p> <p>左の欄に「ハブホームの同意書」とありますが、これは、IFCA の場合は、「ハブホームの職務説明書(日本語版)」を使います。</p>

ステップ（5）：継続的な支援とコンサルテーション

◎ 使用する資料（米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料） *MFJ 独自の資料は青字で記載されています。

- コンサルテーションの概要（この様式は無し）
- MF フィデリティ・チェックリスト（日本語版）

▶このステップの目標：「文化と社会変化が遭遇すると、つねに文化が勝利する」と言われている。そのため、最初の6ヶ月は、いちばんの難関である。ホスト・エージェンシーと事業関係者たちは、モデル実施に向けてすでに多大な労力を注いだことだろう。IFCA は、組織がどのような体制の変化をもって、新しい取り組みに適切に順応しているかを観察する必要がある。また、IFCA はコンサルタントとして、HA との定期的な接触をつうじて「フィデリティ・チェック・リスト」と合意書の内容に沿って、HA がどのような対応をしているかを確認する必要がある。

▶ホスト機関と実施チーム全体に対する質問：コンステレーションは、フィデリティに基づいたモデル実施を行なっているだろうか？ホスト・エージェンシーは、組織内の能力開発（キャパシティ・ビルディング）を行えているだろうか？

IFCA の諸機関への『サポート』は実際にはどのように行われてゆくのだろうか？

コンステレーションの立ち上げの後の6ヶ月は、ホスト・エージェンシー（HA）は1ヶ月に1度の割合でIFCA のディレクターと面談し、コンサルテーションを受けることが必要である。HA が最初のコンステレーションを立ち上げに適切に順応し、ハブ・ホームの負担を軽減するためである。最初の6ヶ月に起きがちな傾向として、以下のようなことが挙げられる：

- サテライト家族がレスパイトを利用していない
- サテライト家族がハブ・ホームの里親に連絡を取らない
- コンステレーションに関与している他の団体や個人のモッキンバード・ファミリーへの理解・知識が薄い
- コンステレーションに関与している他の団体や個人が、『モデル実施のための合意書（プロトコル）』の内容を許可なく変えることで、フィデリティに沿わないモデル導入・実施になっている

どれも新しい取り組みのなかで起こりがちなことである。最初の2項目については、ハブホームに、時間の経過とともに解決を見る問題であることを伝えるのが良いだろう。コミュニティと信頼が築かれると、人々は自然と支援や指導を求めるようになる。ハブ・ホームはサテライト・ホームに対して、1週間に1度の頻度で連絡をとり、子どもや養育者の様子を探ることが重要である。

コンステレーション内の集まりや会議への参加はたいへん重要である。

フィデリティ・チェック評価の段階で、「新しいサテライトの里親に対して、なにをアドバイスすればよいですか？」という質問を毎回のように受ける。そのたびに、モッキンバード・ソサエティのスタッフは「コンステレーションの集まりに参加する」ことの重要性を強調しなさい、と伝える。里親が疲れている、子どもが問題行動を起こしている、研修が必要かどうかがよくわからない、など、様々な状況があるに違いないが、とにかくコンステレーション内の集まりに参加することが大切なのは、子どものケアにかかわる人の集まりの中に全てが起こるからである。

リエゾンとハブ・ホームが全力を尽くしてコミュニティづくりをしても、コンステレーションの集まりにだれも参加しなければ何の意味もない。

IFCA のコンサルタント（ディレクター）へのメモ:

- コンサルタントの役目は、ホスト・エージェンシーが自分たちの力でモッキンバード・ファミリー™のコンステレーションを適切に実施できるようなスキルを与え、将来は最低限のサポートのみで自立した事業運営ができるようにすることである。最初の2年間は、取り組みのための組織的な変化と順応に合わせた支援が必要であるが、最終的には、HA が事業の所有者としての意識と積極性を培ってゆくことが重要である。
- 難度の高い問題や障壁が起こった時に実質的な支援を与え、必要に応じてリエゾンとハブ・ホームにスキルアップのための研修を与えることが任務である。HA はコンステレーションを、「モッキンバードに属する取り組み」という観点からとらえるのではなく、自分らのプログラムとして育ててゆくことが大切である。
- 時間が経つにつれ、複数のハブ・ホームとの3ヶ月に1度の会合を持つことを推奨する。ハブ・ホーム同士が知恵や情報を分かち合うことは重要だからだ。小さな地域のハブ・ホームの里親が、3ヶ月に1度の集まりを持つとすれば、1年に1度は、大きな領域（県や国）のハブ・ホームの養育者たちが集まれる機会をもうけ、研修などを行うことも推奨する。

MFJ から・・・このステップの重要なポイント

- * 最初の3か月の月例ミーティングを IFCA とホスト・エージェンシー（HA）がサポートすることが重要
- * ハブホーム（HH）が活動日誌を付け、HA とともに、管理をする。
- * IFCA によるコンサルテーションと定期的なミーティングを行う。（1ヶ月に一度、
- * コンステレーションの立ちあげの時点から最初の1年は、3ヶ月ごとに関係者会議を行う。

ステップ (6) : フィデリティ・チェック

*フィデリティ・チェックリストとは、モッキンバード・ファミリーに重要なすべての要素が正しく活用されているかどうかを確認するために、ホスト・エージェンシーやハブ・ホームを対象に、IFCA が用いるツールです。

◎ 使用する資料 (米国モッキンバード・ソサエティと MFJ の資料)

- サテライト家族フォーカスグループ質問集
- ハブ・ホームへの質問集
- ホスト・エージェンシーへの質問集
- サテライト家族 フィデリティ・チェック・リスト
- ハブ・ホーム フィデリティ・チェックリスト
- ホスト・エージェンシー フィデリティ・チェックリスト
- フィデリティ・チェック結果報告フォーマット
- フィデリティ・チェックの評価ツール

▶**このステップの目標**：継続的な電話での対応などを通じて、IFCA はホスト・エージェンシーとともにモデル実施を続ける中で、関係機関や個人にどんなポジティブな変化が起きているかを観察・測定することが重要である。この変化こそが、拡大家族の構築をとおして地域へのエンパワーメントをもたらすからだ。ハブ・ホームとのフィデリティ・チェックを行うことで、その進歩の度合いだけでなく、組織が長期的な変化に向かって進んでいるかどうかを見極めることができる。

<p>面談の前に行うこと：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 米国モッキンバード・ソサエティのコンサルタントは、コンステレーション構築1年目にアセスメントを行う。複数のコンステレーションがある場合は、ふたつ以上のコンステレーションとの面談を同時進行する可能性がある。 ▪ 以下の3つの面談を行う： <ul style="list-style-type: none"> ○ ホスト・エージェンシーとの2時間の面談 (リエゾンとプロジェクト・マネージャーと) ○ ハブホームとの1時間の面談 (すべてのハブ・ホームの里親と) ○ サテライト家族のフォーカス・グループとの2時間の面談 (コンステレーション内のすべてのサテライト家族) ▪ 上記の面談の3週間前に、ホスト・エージェンシーのスタッフ、ハブ・ホームおよびサテライト・ホームアンケート調査用紙を手渡す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ コンサルタントが訪問する1週間まえに、結果を送る ○ コンサルタントは、フォーカス・グループを実施する前に、アンケート結果から気づいたこと、疑問に思ったことを書き出しておく。 ○ コンステレーション内の養育者や子どもの名前を外部に伝えないようにする (厳守) ▪ フィデリティ・チェックを行う機関 (この場合、モッキンバード・ソサエティと IFCA) は面談の前に、アンケート結果だけでなく、1年間ぶんのコンステレーションからのレポートを取りまとめて、ひとつのレポートを作成しておく。
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>面談の際に行うこと：</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面談は、ふたりのコンサルタントがチームで行う。1人が質問をして、もう1人がメモを取るなどの、役割分担をする。 面談用の書類の上部にある、免責事項を読みあげる。 誰が何を発言したかを記述に残さないようにする。個人名はなるべく使わないようにする。 面談中には、質問をされる立場の人たちができるだけ自由に会話を持てるようにながす。サテライト家族の里親がディスカッションを持つと、いつのまにか、そこにインタビューの聞き取りを行なっている人がいることを忘れるほどである。 ハブホームとの面談には、ホストエージェンシーのスタッフを招かずに、自由に対話が進むようにする。 同様に、サテライト家族との面談の際は、HAのスタッフとハブホームの里親が立ち合わないようにすることにより、拘束されない自由な発言の場をつくる。
<p>面談の後に行うこと：</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面談をおこなった2名のコンサルタントは、次の日に会って、面談の中でどのような発言が出たかをお互いに整理する。フィデリティ・チェック・リストを見ながら、コンステレーション内で、なにがうまくいっていて、何がうまく進んでいないかを振り返る作業をする。
<p>面談後の アセスメント：</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面談の後、2、3日の間に、『フィデリティ・チェック結果の分析ツール』を使って、コンステレーションの評価をする。ふたりのコンサルタントが別々にアセスメントを行い、それぞれの結果を持ち寄る方法が正確性があり、適切であろう。 コンサルタント同士がお互いのデータの分析結果を理解したところで、フィデリティ・アセスメント報告書の作成に入る。 フィデリティ・アセスメントの終了1ヶ月後には、『IFCA モッキンバード・ファミリー・ジャパン』のコンサルタントは、プロジェクト・マネージャーや他の上層部のスタッフとともに会議を行い、アセスメントの結果を発表する。
<p>長期のフィデリティ・ チェック：</p>	<ul style="list-style-type: none"> フィデリティ・アセスメントの1年後には、IFCAが2年に一度の割合でコンステレーションごとのアセスメントを行う。この2年毎のアセスメントには、オンライン面談の方法を使うこともできる。（その場合はモニターを使い、話している相手の表情などを観察することを推奨する。） 2年毎という頻度にかかわらず、IFCAが、コンステレーションの運営内容のクオリティーに懸念点を見つけた時などは、現場でのアセスメントを行うことが必要である。

その他、特記すべきこと：

- * モッキンバード・ファミリー事業を実施するほとんどのホスト機関に、アセスメントの結果、改善すべき点が見つかるのが通常であるが、70%以下の得点が結果として出てくる例はきわめて少ない。モデル導入の**ステップ（1）**の段階でホスト機関の適正を見極めることができているならば、望まない結果は未然に防げるはずである。
- * だがもしも、ホスト機関が70%以下の点数を取得した場合は、フィデリティ要綱に見合うパフォーマンスができるように、目標を立て直すことが重要である。その目標に向けて、コンステレーションとモッキンバード・ファミリー・チームは、報告書に指摘されている問題点の改善計画を立てる必要がある。
- * ホスト機関が、改善計画に沿ってモデル実施を行う決意の無い場合は、IFCAは、ホスト機関と今後、協働を続けるかどうかを決定しなければならない。
- * ホスト機関との契約が解消された場合は、ホスト機関はモッキンバード・ファミリーにかんする書類や資料のすべてをIFCAに返還して、モッキンバード・ファミリーというタイトルを使うことを禁じられる。

■ この『モッキンバード・ファミリー™ 導入ガイド』は、IFCA がモッキンバード・ソサエティから許可を得て日本語に翻訳し、さらに、編集事項を加えたものである。

© The Mockingbird Society, 2019 不許複製

特定非営利活動法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-33-6-202

www.ifcajapan.org